

令和3年第2回大衡村議会定例会一般質問通告書一覧表

通告順位 1番	氏名 石川 敏	質問形式: 一問一答
1. 件名 消防団員の処遇改善を		
要旨		
近年、地震、台風、豪雨等の自然災害が全国各地で多発しており、住民に最も身近な存在である消防団はその対応に大きな役割を果たしている。しかしながら消防団員数は全国で減少しており、本村においても年々減少している状況である。		
災害の多発化や激甚化と団員数の減少により、団員一人ひとりの役割負担が大きくなってきている現状から、消防団員に対する報酬手当の処遇改善等を図ることが必要ではないか。		
災害等に際し地域の安全・安心を守る消防団のあり方、団員の確保対策等について問う。		
①消防団員数の推移、年齢構成、年間の出動状況は		
②報酬、出動手当の現状と問題点は		
③正規団員、OB団員、役場協力隊等、消防組織体制の編成方針は		
④消防団の社会的評価の向上策、団員確保のための取り組み策は		

通告順位 2番	氏名 小川 克也	質問形式: 一問一答
1. 件名 対コロナで変わる学校は		
要旨		
新型コロナウイルス感染が広がり、昨年は長期の臨時休校を余儀なくされた。		
小中学校は様々な感染対策を講じて新学期をスタートした。しかし、先生方にとっては新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、対話的活動などを授業のメインに位置づけられないまま授業が再開されている。		
未知のウイルスへの対応に苦慮した一年を経て、学校現場はどのように変わってきているのか。		
次の点について問う。		
1, 換気、消毒は具体的にどのような頻度、範囲で行っているか		
2, 水泳授業の実施は可能か		
3, コロナ禍、屋外で活動する機会が増えている。校地・校舎等、児童生徒の安全は大丈夫か		
4, スポーツ少年団や部活動の感染対策と活動状況は		

令和3年第2回大衡村議会定例会一般質問通告書一覧表

通告順位 3番	氏名 赤間 しづ江	質問形式: 一問一答
1. 件名 デマンドタクシー試験運行の概要は		
要旨		
本村の新地域交通システムについて、令和2年5月の常任委員会での説明は、予約のあったところを巡回する「デマンド型方式採用」との方針が示され、シルバー人材センターに、		
運転業務を委託する予定となっている。		
令和3年10月からの試験運行まで4カ月となったが、基本的な項目の検討がどう進んでいるのか、今後スケジュールについても伺う。		
①運行日、時刻、運賃についてどのように考えているのか。		
②車種及び運転従事者数は		
③利用者の手続き、予約等の事務調整作業、担当課はどこになるのか。		
④村民への周知の方法と、時期はいつごろを予定しているか。		
⑤令和4年4月の本格運行にむけての試験運行だが、運行委託先がシルバー人材センターではなく、バス事業者、タクシー事業者があげられている。これまでの説明と違う状況になった経緯について		

令和3年第2回大衡村議会定例会一般質問通告書一覧表

通告順位	4番	氏名	佐野 英俊	質問形式: 一問一答
1. 件名 デマンド型タクシーの試験運行について				

要旨				
<p>本年10月から開始される新地域交通システム・デマンド型タクシーの試験運行は、自由経路ドアツードア型の予約による自宅から指定施設までのサービス提供で、住民からの期待は大きいと考える。</p> <p>試験運行の運営・予約業務を大衡村シルバー人材センターへ委託するとしてきたが、試験運行の開始に向け、次の点について問う。</p>				
① 安全運行が常に確保できる体制の交通事業者に委託するべきでは				
② 高齢者の利用が多いと予想されるので、予約方法は簡単にすべきでは				
③ 廃止することなく再考するとしている、万葉バスと代替バスの改定運行方針を早めに示すべきでは				
2. 件名 水道事業のみやぎ型管理運営方式について				

要旨				
<p>本村水道事業が受水する大崎広域水道事業をはじめ宮城県の上下水道と工業用水の運営が、来年4月から「みやぎ型管理運営方式」民間による事業へ移行される方向で進んでいるが、次の点について問う。</p>				
① 民営化の最終的な方向付けについて、県から市町村長への説明は				
② 水質管理やモニタリング計画についての担当部署への説明は				

令和3年第2回大衡村議会定例会一般質問通告書一覧表

通告順位	5番	氏名	小川 ひろみ	質問形式: 一問一答
1. 件名 教育行政について				

要旨				
<p>新型コロナウイルス感染が広がり、小・中学校では様々な感染対策を積み重ね、未知のウイルスへの対応に苦慮している現状であると思われる。そして、コロナ下の子ども達は新型コロナウイルス感染が収まらず、ストレスと不安を抱えたまま過ごしている。コロナ禍から得られた教訓を、将来にどう生かし、取り組むのかを問う。</p>				
<p>①昨年の一斉休校でオンライン授業が導入された。児童・生徒に貸与したタブレット端末の活用とインターネット環境が整っていない家庭への対応は、ICT支援員の活用を考えると、</p>				
<p>②日本学生支援機構での「給付型奨学金」制度は、一定の要件を満たした学生が対象である。本村独自の給付型奨学金制度の構築を</p>				
<p>③新規事業である小・中生対象「土曜塾」の進捗状況は</p>				
<p>④小学校で生きる力を育むための「農業科」を必修にすることを考えては</p>				
2. 件名 稲作農家支援種もみ代半額助成を				

要旨				
<p>新型コロナウイルス感染が農業にも影響がでている。米価の下落は否めない状況である。農家の方々への支援をすることは、基幹産業である「農業」を守る一助である。</p>				
<p>稲作農家を救うためにも、種もみ代半額助成をしては。</p>				